

希学園 第409回 小6公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第409回公開テスト 小6国語 解説動画(2026年6月14日実施)	https://vimeo.com/1201110955/932efbcae7

1 a 自明
b 強調
c 不当

2 A 丁 B と C 知 D 取 3 I 自分のうこと

3 II 自分がど 4 (記述題) 5 ③ 普遍的 ⑤ 刷り込

6 自く代 7 X ウ Y イ 8 ⑦ 相対 ⑨ 絶対 9 (記述題)

2 a 暴力 b 限界 c 本題

2 A う・む B 売り・買い C 虫 3 郷 4 ア

5 I 思えば II 菜々くなさ 6 (記述題) 7 救急

8 イ 9 I おかん II 男の子の親

（「および」「付きも可」）

1 桜に儂さや慎み深さ、時の流れと
いった特別な美を感じるのは、日
本の文化、思想や風習に方向づけ
られていて、いるのだということ。

（同意可）

無意識のうちに内面化している価値観を客観視し、自分だけが正しいと思わないことで、異なるバックグラウンドを持つ他者を尊重できるから。

（同意可）

2 我が子の緊急事態であったのに、高校球児としての将来という体裁にとらわれて、なすべき行動を起こせなかったこと。

（同意可）

【配点】	1	1
その他	4	1
	9	2
	2	2
	6	1
		2
各2点×13		26点
各6点×3		18点
各4点×14		56点

- ① (井奥陽子『近代美学入門』より) ※出題の都合上、一部表記を変更したり省略したりした箇所があります。
- 1 a 「自明」は、「自ずから」「明らか」であること。 b 「強調」については、「強張」などとしなないこと。「調子を強める」である。 c 「不当」は、「正当・適当ではない」ということ。
 - 2 いずれも三字熟語・慣用表現と言ってよいものである。 B 「変貌」には「遂げる」が組み合わせて使われやすい。
 - 3 I・IIそれぞれの設問の指定をよく確認しよう。 Iは「当初」、IIは「専門課程で学ぼう」と述べられているので、Iは冒頭付近にあるだろうし、IIは研究室に入ってから後のところを探すことになる。実際には、IIについては、「専門課程で学んでいくうちに気づいたことがあります」という形で述べられている。
 - 4 桜を例にしてどういうことか説明するという——線部②をそのまま実行することに等しいので、後続部分をまとめていくことになる。字数に合わせて、適切な具体性のところまでを取捨していこう。
 - 5 ③言葉の意味が正しくイメージできていれば語彙力でも処理できるが、読解的に同段落の内容を精査しても見つかる。
⑤同様の表現が多数出てくるので、イメージを持ちつつ、字数に合うものを探す。「当たり前と思っていた(る)」とか「無意識のうちに内面化している」なども類似の表現で、意識しないうちに当たり前だと思込んでいるという意味合い。「染みついてい」「やや比喩的な言い方ということもできるが、字数的にも同じような表現になっているのが「刷り込まれている」である。「うている」の部分も対応していることまで確かめられるとベスト。
 - 6 「『発見』」という「『』」付きの表現は、ここでは「それまでなかった」ということを強調している。設問は「どのような時代」という問いになっているので、「『時代』」という末尾にも注目しよう。
 - 7 「そうであれば…フトウだと思いませんか」というつながりなので、「そうであれば」には、『読者がそれまで常識と思っていなかった意外な内容』があてはまる。「こうした見解を前提にして」は、「前提」という言葉の意味から「当たり前と思う」とイメージできれば、『読者が常識だと思っていたこと』があてはまるとわかるが、そうでなくとも、「見解」を同段落から探せば決まる。
 - 8 ⑦については知らないし、⑨については「自分の物差しで測れないからといって、間違っているとか…判断し」とあるので、「自分だけが正しい」とか「自分は間違っていない」という意味であることがわかる。ここから「自分が絶対に正しい」と言い換えられれば答えが出る。
 - 9 直前の「これ」は、直前の段落の「無意識のうちに内面化している価値観を客観視して…」である。それが「多様性を認め合う社会」につながるようにしたいわけだが、同段落後半に「現代社会で生きるうえで重要かつ基本的な態度」とか「こういった姿勢を涵養する役割」といったことが述べられているので、この段落をまとめればよいことがわかる。
- ② (早見和真『アルプス席の母』より) ※出題の都合上、一部表記を変更したり省略したりした箇所があります。
- 1 a 「暴力」は「暴」の字形を丁寧に書くことが重要である。 b 「限界」についても字形のバランスを丁寧にとってほしい。 c 「本題」は「話の中心、本来大事なところ」といった意味。
 - 2 語形に特徴のあるA「うやむや」や、対句的な構成のB「売り言葉に、買い言葉」といった言い回しも、日頃から見かけたら注目しておこう。
 - 3 ここでは「関西で生活しているのだから関西弁になるのは自然だ」ということであるから、「郷に入っては郷に従え」が入る。
 - 4 「気色ばむ」は「む」として表情にあらわれること。意味を知っていると早いですが、「しらばつくれ」ようにとした航太郎に対して「目を見返した」とあることから場面のイメージをつくってほしい。
 - 5 「聞き分けのいい母親のフリ」は本文での菜々子の変化前の姿としてキーになるものである。これまではずっと息子の航太郎に対してそういう接し方をしてきたのであった。設問の「母子の関係」という文言もヒントになる。「思えば」というのはここでは「振り返れば」というのと同じだから、後続部分がこれまでの状況を述べた内容になるのも当然のことである。また、この箇所からは夫を失ったからの自身の子どもへの接し方を振り返り、自身のふがいなさから、いざというときに子どもと真剣に向き合えない、親としての無力さを痛感していることが読み取れる。
 - 6 同段落の後半にある「く自分自身に失望した」が「そのことに菜々子自身が傷ついた」と対応している。つまり、「そのこと」は——線部④の前後に描かれている自分自身の姿である。「失望」に類する内容なので、「(本来)……なのに…」という形が活かしやすい。
 - 7 本文の最後で菜々子が航太郎に問うていた「立ち直った理由」を答える設問。時系列を正しく整理しよう。
 - 8 「照れ笑いを浮かべることなく」とわざわざ書くのは、これまでの母子関係ではそうしてきたということをふまえている。したがって、そのときとは違うということの表現である。説明としては「唇を噛みしめた」に込められた思いについても前後から補いたい。
 - 9 設問が遠回しな誘導になっているので、その流れに乗ってほしい。Iは冒頭では頑なに拒絶していた「おかん」という呼び方に対して咎め立てしていない。これを本文全体を通しての菜々子の変化(成長)ととらえたい。したがって、ひとりでなんとかしないといけないと思っていた菜々子は結局のところ子どもと深い関わりを持たず無力感にとらわれていたのだが、勇気を出して真剣に向き合ったこと、そしてそのやりとりを通して亡き夫も決してその存在がなくなつたわけではないことに気づいたと解釈する。この変化の象徴として「おかん」という言い方を受け入れたのだとすると、「おかん」には息子との関係や健夫の存在を通して、菜々子が気づき、変化した側面を表す意味合いが含まれていると考えられる。